

(仮称) 篠路駅周辺地区まちづくり計画 第 5 回地域協議会 議事要旨

【日時】 令和 4 年 10 月 11 日 (火) 18:30~20:30

【場所】 篠路コミュニティセンターホール

【出席者】

○地域協議会委員

所属/役名等	氏名 (敬称略)
太平百合が原連合町内会/会長	庵跡 邦子
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広
わきあいあい篠路まちづくりの会/会長	石本 依子
篠路茨戸地区社会福祉協議会/会長	白戸 黎一
篠路茨戸連合町内会/会長	進藤 幸司
アカツキ交通/常務取締役	春原 啓慶
篠路小学校 PTA/会長	丹藤 大智
篠路中央商店街振興組合/副理事長	寺田 哲
拓北・あいの里連合町内会/会長	長尾 由紀子
区画整理地権者	中西 昌裕
篠路駅前郵便局/局長	西村 司 (欠席)
篠路コミュニティセンター/館長	本橋 幸子
篠路神社/宮司	森 泰文 (欠席)
しのろ紙袋ランタンまつり実行委員会/実行委員長	吉田 愛美

※五十音順

○ オブザーバー

所属/役名等	氏名
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	上口 敦史

○ 事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	小仲 秀知
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	吉原 康次
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	平 将太
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	金野 隼也

【議事・進行】

1 はじめに

- 開会（挨拶、事務連絡）

2 議事（資料1）

- 前回のおさらいと補足
 - 第4回地域協議会のおさらい（別紙1-1）
 - 第4回検討委員会の報告（別紙1-2）
- まちづくり計画について
 - まちづくり計画（素案）の確認
- 地域主体のまちづくりについて
 - シノロリビングvol. 2について
 - 今後のまちづくり活動の展開について

3 まとめ・閉会

【議事要旨】

1 はじめに

○ 開会（挨拶、事務連絡）

（事務局）

- ・ 前回6月に地域協議会を開催した際、まちづくり計画（素案）を確認いただき、ご意見を頂戴した。その後、市役所内部関係部署で調整し、まちづくり計画（案）を作成した。また、11月中旬より1ヶ月程度の期間でパブリックコメントの実施を予定しており、年度内にまちづくり計画を策定したいと考えている。
- ・ 本日の会議では、まちづくり計画（案）についてのご報告と、今後の地域主体のまちづくり活動についての意見交換を行う。皆様の忌憚ないご意見を頂きたい。

2 議事

○ 前回のおさらいと補足

➤ 第4回地域協議会のおさらい

（事務局）

【資料1の4ページの説明】

- ・ 第4回地域協議会での主なご意見を別紙1-1にとりまとめ、いくつか抜粋してご紹介した。
- ・ 「第2回シノロリビング」に係るご意見として、「社会実験の明確なビジョンはどんなものか。人が集って楽しむだけが成功ではないということだが、どんな実験か」というご質問を受けた。社会実験の目的は大きく2つあり、1つ目は地域の中で利用はあるのか、事業者等の需要はあるのか、こういった視点で実現する可能性があるのか検証すること。2つ目は、場を使った取組が重要と考えており、社会実験を通じてまちづくりの機運を地域のコミュニティの中に高めていきたい」ということである。また、「土日に絞った開催にしてはどうか」というご意見も頂いた。平日に人が来ないのであれば、そういう使い方を目指した整備など、平日の検証も踏まえて行い、今後の整備に活かしていきたいと考えている。
- ・ 「今後の地域主体のまちづくり活動について」は、3班に分かれてご意見を頂いた。1班目では、「具体的な目的をまとめるべき」「新たな組織が必要。その中でお互いが抱える課題や悩みを話合うべき」といったご意見を頂いた。2班目では、「シノロリビングも単に場をつくるだけでなく、地域が入り込むきっかけに利用すべき」「シノロリビングをきっかけに、関わりたいと思う若い人も関われる場にすべき」といったご意見を頂いた。3班目では、「若い世代の意見を積極的に入れるべき、意見を出せる場づくりが必要」「PTAなどの連携が重要、今活動している組織との連携や交流でき

る意見交換ができる場が必要」といったご意見を頂いた。3班の意見を踏まえて「篠路で既に多様な地域活動が行われているが、そういった活動を駅前での活動に繋げていくことや若い方々をはじめ、この場にはいない方々を巻き込んでいく機会が必要」、「地域の方にシノロリビングを一つのきっかけとして利用していただき、篠路のまちづくりを担う人づくりに繋げていくことが重要」とまとめている。

➤ 第4回検討委員会の報告

(事務局)

【資料1の5ページの説明】

- 第4回検討委員会での主なご意見を別紙1-2にとりまとめ、いくつか抜粋してご紹介した。
- まちづくり計画について「現況のまとめは、「課題」なのか、「期待されること」なのか明確に表現した方が良い」とのご意見を頂いた。現況から得られた課題を踏まえた「まちづくりの視点」として再度整理した。
- シノロリビングについて、「倉庫などを開放して、開催場所を広げることにはできないか」とのご意見を頂いた。シノロリビングは、夏祭りのような大規模なイベントではなく、駅前における「日常的なにぎわい」を目指しているため、日常的に実施できる規模を検討していきたいと考えている。また、「まちづくり活動の見える化が重要」とのご意見も頂いた。様々な活動をシノロリビングで実践し、地域の皆様に知ってもらうことが見える化も含め社会実験としての目的の達成にも繋がる。
- 地域主体のまちづくり活動の今後の展開について、「急に地元のみで運営することはハードルが高いため、自走が可能になるまでは札幌市の支援が必要」「地域のイベントとして継続するべき、地域の方や業者の支援があれば、継続することは可能」というご意見を頂いた。

<質疑応答>

意見なし

○ まちづくり計画について

➤ まちづくり計画（素案）の確認

(事務局)

【資料1の8ページの説明】

- 庁内議論では、計画に示した考え方「まちづくりの方向性」「今後の展開」とともに了承を得られた。様々な意見を頂き対応を行っているが、計画の方向性を変える意見は無かったためいくつか抜粋してご紹介する。

【まちづくり計画（素案）の説明】

- 篠路の位置を示す図を掲載しているが、「幹線道路のアクセスが良いことや高速道路のインターチェンジや札幌駅、丘珠空港からのアクセスが良い

ことをアピールした方が良い」との意見が踏まえ、図を修正した。

- 検討委員会でもご意見のあった現況整理については、メリット・デメリットを青・赤で色分けし、それらを踏まえた課題という形で整理していた。しかし、良い点、悪い点をあわせ持つ項目があるため、色分けせずに整理し直した。
- 現況を踏まえた「課題とまちづくりの視点」として整理した。例えば、「①閑静な住宅街」「②子育て世代の流入」「③高齢化の進行、若い世代の減少」「⑥駅周辺の低未利用地」といった現況から「視点①：若い世代、高齢者が住み続けたいまちづくり」が必要といったように、現況とまちづくり視点の繋がりが見えるように整理している。
- 実現に向けた展開として、駅前街区の説明を記載している。
- 検討事項と記載した事項については、元々配慮事項としていたが、「法律や都市計画法などに基づくことは当然であり、配慮という言葉は適当ではない」という意見を踏まえ、検討事項として文言を再整理し、合わせて市有地についても修正している。
- 「段階的な土地利用の考え方が分かりにくい」との意見があり、説明を追加している。駅前街区、市有地ABCでは現状の土地利用の状況が異なり、社会基盤整備の進捗状況を踏まえ土地利用を検討する必要がある。まずは、早期に土地利用可能な市有地ACを具体化していき、駅前街区は区画整理事業の進捗、市有地Bはパークゴルフ場の運営の意向を踏まえて活用を検討する。また、これから進められる鉄道高架や横新道の拡幅事業の進捗も見極めながら具体化を検討していく。

【資料1の9ページの説明】

- これまで地域協議会、検討委員会を各4回ずつ行ってきた。ここまでの説明によりまちづくり計画（案）について、市役所内部の関係部署との協議結果を報告させていただいた。今回の第5回地域協議会を経て、今後、11月からパブリックコメントの実施を予定している。パブリックコメントとは、計画（案）を市民の皆様へ公開し、皆様から寄せられたご意見などを取り入れることができるかを検討すると共に、寄せられたご意見に対する市の考えや検討結果を公表する手続きのことである。パブリックコメント以降の対応は、頂いたご意見の内容を踏まえて検討していく。その後、専門用語の注釈や過去のシノロナビなどの参考資料を追加して完成となる。

<質疑応答>

意見なし

○ 地域主体のまちづくりについて

➤ シノロリビングv.o 1. 2について

(事務局)

【資料1の13ページの説明】

- ・今回の社会実験は、8月25日(木)～28日(日)に実施した。実施した4日間は全て天候にも恵まれ、事故もなく、無事実験を終えることができた。秋に実施した昨年度は、飲食や憩いの場などが中心だったが、今回のシノロリビングでは「夏季の実施」「取り組むコンテンツの拡大」「多世代の交流」「地域との連携」の4点をポイントに企画、実施した。

【資料1の14ページの説明】

- ・基本的な場の設えについては、JA様より昨年度と同じ場所をお借りし、人工芝や北海道大学の組立和室、西側の敷地にはキッチンカーが並ぶ前にキャンプで使うようなテーブルやイスを設置して憩える設えを準備した。

【資料1の15ページの説明】

- ・夜間も照明を用いて会場全体を照らし、昨年度に引き続きランターンを並べ、雰囲気作りをした。

【資料1の16ページの説明】

- ・キッチンカーは、公募を行い決定した。木曜日と土曜日で1組、金曜日と日曜日で1組、の2組に分けて、計6店にご協力いただいた。種類としては、クレープやジェラート、コーヒーの軽飲食店舗から、豚丼やから揚げ、蕎麦、ステーキ丼などのご飯もののお店まで幅広くご参加いただいた。

【資料1の17ページの説明】

- ・野菜マルシェについては、あいのさとワークセンター様より野菜の販売をしていただいた。図書については、絵本の移動販売をしているいどうほんやKOKO様や寺田文庫として古本の貸出をしている寺田委員より図書のコンテンツを提供いただいた。キャンプ空間については、ホッとしろ21の湯村氏にキャンプ道具展示ややモルックなどの遊具を準備していただき、子どもたちに楽しんでもらった。

【資料1の18ページの説明】

- ・ステージ活動について、今回は簡易的なステージを準備した。公募に応募いただいた小学生のドラマーのステージ演奏により、たくさんの方に演奏を楽しんでいただき、道奏君の演奏の「音」にひかれて人が集まる様子も見られた。

【資料1の19ページの説明】

- ・映像放映については、25日(木)と27日(土)の夕方以降にレンガ倉庫の壁面にプロジェクターを用いて、北区保護司会様の活動や篠路こども

歌舞伎の映像、子ども向けのアニメーションを放映した。レンガ倉庫と連携する形で篠路の文化や活動の情報発信ができ、「こうした篠路の歴史文化はあまり知らなかった」「知るいい機会になった」という声や、「情報発信の機会があまりなかったので良い機会になった」といったご意見を頂いた。

【資料1の20ページの説明】

- ワークショップは、ものづくりのワークショップとして、3種類の企画を準備した。アイロンビーズ、ハンカチや小さな巾着に染色する藍のたたき染め、小さなタイルを用いたコースターの作成を準備し、当日は予定の2～3倍の参加者が集まり、沢山の方に楽しんでいただいた。また、北海道大学様による組立和室のワークショップは、和室を実際に組立・解体する体験に子どもたちに参加していただき、子どもだけでなく一緒に来られていた親御さんも喜んでいました。

【資料1の21ページの説明】

- 事務局で企画したトークイベントは、4日間で1日1回の計4回、出店者や企画側、来場者など様々な世代に参加していただき、社会実験を通して感じたことや将来の篠路に思うことなど、自由な意見交換の場を設けた。こういった形で多世代が交流し会話する場面は日常的には無いいため、参加した方からは「非常に刺激になった」という感想や「地域への愛情の必要性」など幅広いご意見を頂くことができた。

【資料1の22ページの説明】

- 「空間利用状況」について、4日間の来場者総計は約850人、15:00～19:00の来場が多く、日曜を除く3日間とも20時ごろまでの来場が見られた。また、利用目的としては飲食の利用が多かった。購入してそのまま帰る方がいる一方で、購入したあと組立和室で休まれたり、ステージ活動をご覧になったりと他のコンテンツと組合せた利用が多く見られ、特に子どもと一緒に利用するケースが多く見られた。来場者のお住まいは、篠路駅周辺の方が26%、北区北部3地区からは64%を占めており、昨年よりも広域から来場する割合が多く、徒歩と自転車での来場が昨年より減った一方で鉄道を利用した来場が14%に増加した。
- 「運営者の意見」については、開催前より「平日の売上げが不安」という声をキッチンカー業者の方々より頂いていたが、他の物販も含め、結果は売上げも概ね良好であり、出店者側としても前向きな検討につながる結果となったと考えている。キッチンカーなどの需要がある一方、座席数が不足することやシノロリビングの広報活動の改善についてのご意見があった。また、こういった活動を継続的に地域中心の取組として求めるご意見も頂いた。今回は屋外での開催のため天候への対応に関するご意見もある一方、屋外だからこそそのメリットを重要視するご意見も頂いた。また、デザインに関するご意見も多く頂いた。今回はレンガ倉庫という背景に見栄えを求めることができたほか、夜間の照明や組立和室など、活動する場を

構成する上で居心地の良いデザインも重要な要素であることが再認識できたと考える。

- 「利用者の意見」については、昨年よりも様々なコンテンツを用意したが「組立和室に座った異なる世代の人たちがちょっとした会話を始めたり、たまたま居合わせた人たちが組立和室のワークショップという一つの達成を共有するという多世代の関係性や交流を生むきっかけに繋がったと思う。」「地域が集える場所が欲しい」「立ち寄れる場所が欲しい」というご意見や、「マルシェやチャレンジショップ」などの新たな物販コンテンツを求めるとご意見を頂いた。総合的な満足度については、「満足・まあ満足」が7割以上で、昨年度のアンケート結果と比べ満足度の高い回答者の割合が増加した。
- 考察として、1点目「広場の需要や、地域のチャレンジ、地域中心の取組など、今後の活動を求める声があり、継続的な活動体制を検討していくことが重要」、2点目「キッチンカーやワークショップなど、様々な活動の可能性が確認された」、3点目「子育て世代の来場が多く、若い世代が住み続けたいまちづくりに貢献できる可能性が確認できた。そういったニーズを理解している若い世代が主体的に考えて取り組むことの重要性が確認された」と3点をまとめた。

<質疑応答>

(委員)

- シノロリビング調査結果(別紙2) 5ページの「(2) 篠路駅周辺での交通手段」のアンケートの結果に示すとおり、多くの方が、自転車または自動車にて通われていると思う。そのため、JR高架下の有効活用で駐輪場、駐車場を整備していただきたい。そうすることで今後シノロリビングに通いやすくなると思う。

(事務局)

- 駐輪場については、駅前にある駐輪場を高架下に配置する形で検討を進めている。駐車場については、周辺の土地活用や地域の考え方を含めて、総合的に検討していくことになるため、それを踏まえて考えていきたい。

(委員)

- 今回は札幌市の主催でシノロリビングを開催したが、今回の規模では、民間で開催するとなれば商売にならないと思う。もう少し人を多く集めるため、交通機関を充実させた方が良い。

(事務局)

- 交通機関の充実については、すぐに対応することは難しいが、頂いたご意見は共有し検討していきたいと考えおり、今後ともご意見頂戴いただければ

ばと思う。

➤ 今後のまちづくり活動の展開について

(事務局)

【資料1の24ページの説明】

- これまで地域協議会や検討委員会などまちづくり計画の検討の中で、地域主体のまちづくり活動に関する意見交換を行っていた。また、そこでのご意見を踏まえて、シノロリビングを昨年度、今年と実施した。地域協議会では、企画へのご意見やアイデア、結果の共有、今後の展開などを議論した。地域協議会が終了したあとは、こういったシノロリビングなどのまちづくりに関わる組織が無くなり、協議の場がなくなってしまうことが課題であった。

【資料1の25ページの説明】

- 前回の地域協議会では、どのように地域が関わっていくべきか3班に分かれて意見交換を行った。「引き続き議論できる新しい組織が必要。若い人の意見を積極的に入れるべきだし、意見が出る場づくりが必要」「関わりたいと思う人が集まれる場が必要」「自主性が重要、成功体験を積み重ねられると良い」などのご意見があった。

【資料1の26ページの説明】

- 第4回検討委員会では、地域協議会での意見交換を踏まえて、「気軽に話し合える場、色々な方が参加できる場」と、今ある取組やシノロリビングのような取組、そうした地域の活動を行いさらに広げていくアクション、このサイクルを上手く回していくことがポイントであるということ、また、「シノロリビングについて、もっと地域に任せても良い」とのご意見を頂いた。そうした機会を通じ、人と人との関係づくりをしっかりと構築する中で未来づくりを実践していく、といったポイントを整理して説明した。これを踏まえて、検討委員会でも、「形式的な会議とは分けて、若い世代が意見を言いやすい場づくりが重要」「継続した取組になるといろいろな人との関わりができるきっかけにもなる」「自走できるまでは行政がサポートに入ったほうが良い」といったご意見を頂いた。

【資料1の27ページの説明】

- 地域協議会は今回が最後になるが、これまでの議論を踏まえると、継続的に「気軽に話し合える場、色々な方が参加できる場」は必要である、という結論と考える。こうした場は「地域主体」の活動の検討を目指していることから、「継続できること・無理をせずできる取組を検討すること」、さらに「楽しみながら取組むことが大切」であり、段階としては「スモールスタートから取組・繋がりを育てていく」ことがキーワードかと思う。
- 今後の展開としては、「①初動期：例えばこれまで育てて来たシノロリビング、あるいは地域で出来る取組をまずやってみる」「②助走期：そうした検討やアクションの場に徐々にファンが増え、できる活動が増えていく」「③

事業後：まちづくり計画の事業ができた後も、うまく連携をしながら自立した取組が増え、将来に向けて継続していく。この「場」がより良い繋がりに成長していく」というステップをイメージしている。そのきっかけ、最初の一步として、仮称として「(仮称)篠路 OPEN! Meeting」を位置付けている。

【資料1の28ページの説明】

- 「(仮称)篠路 OPEN! Meeting」は、どんな「場」としてスタートしていくといいのか、ここからは地域の皆さんとのディスカッションの時間を設ける。これまで説明してきた地域協議会、検討委員会に加えて、シノロリビングの来場者や参加者中에서도ご意見を抜粋してご紹介する。例えば「主役は地域であってほしい」「気持ちを持つ人がキーになり地域が関わっていくべき」というご意見や「愛着を育てるにも対話の機会が重要」「地域がチャレンジできる機会が欲しい」といった意見もあった。
- 行政としてはこうした取組の支援として、例えば会議の開催支援や連絡調整など、引続きできるサポートをしていく意向。また、これまでの説明を踏まえて、「(仮称)篠路 OPEN! Meeting」では、「日常的な居心地を良くしてまちを魅力的にする取組」「活動を通してまちを楽しみながら徐々に活動者・協力者を増やす取組」等により、まちに小さな変化を生み出していく場、アクションファーストの場である、ということがポイントと考える。それが、これまでも議論を重ねてきたまちづくり計画と整合して、その実現に向かっていく取組という関係性になれると思う。「(仮称)篠路 OPEN! Meeting」の場について説明したが、どのような取組にするかなど具体的なアイデアについては、3班に分かれて意見交換させていただきたい。

<意見交換>

【1班】

- 「そもそもシノロリビングは限られた場所で開催しており、地域のイベントとして開催するにも狭い」、「事業が色々進んでいくと規模の大きなイベントができるような場所ができてくる。そういったところで、連携していくには商店街など地域の方々が入っていくことが大事である」などのご意見を頂いた。
- 「町内会やシノロリビングに参加された方、アンケートで前向きな回答を頂いた方など、若手の方も入っていただきながら意見交換をしていくこと」もポイントではないかと思う。また、「初めから大きい規模では大変かと思うので、今回の地域協議会程度の規模で実施したら良い」「間髪入れずにシノロリビングを開催する予定ならば、事業が進むと手遅れになるため、なるべく早めに実施した方が良い」とのご意見も頂いた。早めに実施することもひとつのポイントになる。

- その他にも「若い方を入れて大きいイベントは難しいと考えるため、小さな取組から色々アイデアを頂き、意見交換しながらつくる」「今回、知らない事業者がシノロリビングに入り実施したが、できれば商店街など地域の方が店舗として入り、地域の取組として育てていくと良い」といったご意見も頂いた。

【2班】

- 「(仮称)篠路 OPEN! Meeting」を行うにあたり、「若い人の意見が必要であるが、忙しい世代のため、例えばオンライン会議を開催すれば良いのではないか」「若い方々の意見を聞くならば、SNSや学校等で授業を行うことも有りなのではないか。また、ランタンや地域の歴史を知ることで、子どもたちが10年後、自分たちの地域がどうなるのかを深く考える良いきっかけになると思う。そして、子どもが参加することで親御さんたちも参加し、多世代が交流する一つのきっかけづくりになる」といったご意見を頂いた。
- 「規模としては、最初は小人数で行った方が良い。大人数で行うと意見が出にくいのではないか」「時期的には、シノロリビングを開催して間もないため、熱意のあるうちに早く行うほうが良い。また、自分のこととして、主体的に動ける人、コアとなって動ける人は必要である。そういった人たちは強制であっても参加していただくことに意味があると思う」というご意見もあった。
- 「多世代が意見交換できる場、子どもが参加できる場が重要である。具体的な参加メンバーとしては、篠路で事業を展開している方などが良い」とのご意見も頂いた。

【3班】

- 「気軽に話合える場、メインの場所とはどういった目的なのか。あくまでもアクションを行う場であることがひとつ」というご意見を頂いた。「主体的に動ける人が見えてこないため、シノロリビングにプレイヤーとして関わってきた方も重要な人材と考え、そういった方々に声がけしながら、今見えていない方をいかに人材発掘していくか」も重要だと思った。
- 地域協議会の役割については、シノロリビングにプレイヤーとして参加されていた方に全て押し付けるのではなく、後継人としてフォローすることだと思ふ。また、「子ども」がキーワードになると思われるので、学校での取組は、子どもとその親御さんなど若い世代も参加しやすいのではないかと。そういったところも含め、「(仮称)篠路 OPEN! Meeting」が多世代の交流の場になっていけば良いが、始めはプレイヤーの方中心に話合える場とし、徐々にターゲット層を広げていければ良い」「シノロリビングを開催した場所に限らず、駅前で何かアクションする等を掲げ、人を集めていくことも必要である」といったご意見も頂いた。

<まとめ>

(事務局)

- シノロリビングを2回実施しており、そこで得た人脈が一つのきっかけとなり色々な方をまとめる場になっていくこと、若い方やアクションを起こせる方の重要性を皆様はご理解されているので、そういった方々が認知しやすいような仕組みや人の集め方等が重要であるということが今回意見交換された内容かと思う。また、SNSなども活用し、求めている人材や活動内容を具体的に発信していくことも必要。まずは、小さなことから始めていき、大きく育てていくことが必要になるため、「自分ごと」や「地域ごと」として捉えていただける人材を集めていくことが必要である。また、若い方々は、町内会長や代表者が一緒だと萎縮し、発言が難しくなる可能性があるため、フラットな場として、気軽に話合える場、アクションを起こせる場づくりが必要ということは皆様との共通認識と思う。地域協議会は今回で最後となるが、他にもこういった場ができれば、皆様が関われる範囲で関わっていく、同じような意見を持っている方がいれば声がけするなど、スカウトの役割を皆様にはお願いしたい。
- 年度内にシノロリビングに関わっていただいた方、地域協議会の皆様等で学びの場やアクションの場などそういった場を実施していくかと思うが、まずは、楽しくやることが大切であり、その姿を若い世代や地域の方に見ていただくことが重要だと考える。

3 まとめ・閉会

(事務局)

- まちづくり計画は、これからパブリックコメントを受けて、今年度内にまちづくり計画の策定を予定している。この計画は、篠路駅周辺の土地利用と地域主体のまちづくり活動にてより良いまちづくりを目指すものである。土地利用については、民間事業者等のご協力も得ながら、実現に向けていきたいと考えている。
- 地域主体のまちづくり活動は、年度内には会議を開催していきたい。また、今後も町内会回覧されるシノロナビやホームページにて情報を発信していく。